

鶏卵生産等のアンケート 調査結果について

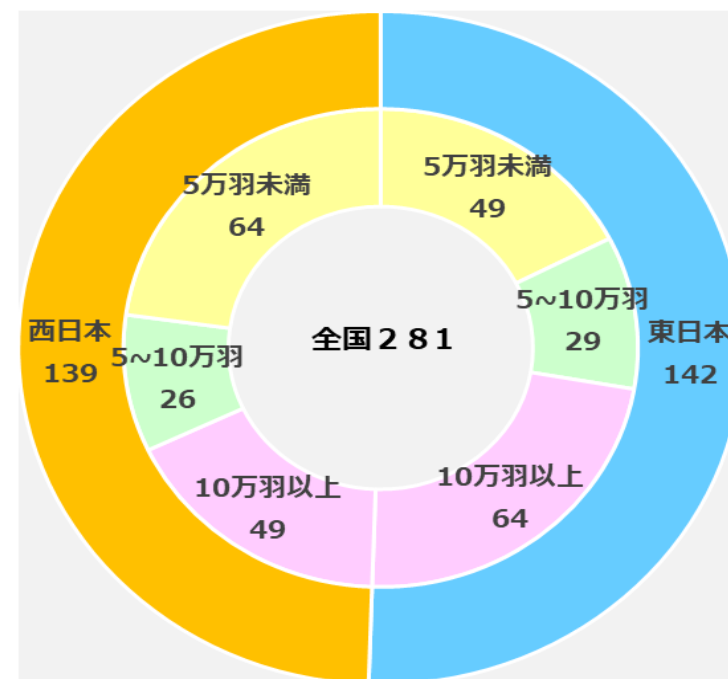
2022(令和4)年3月
(一社) 日本養鶏協会

アンケート調査の概要

※ 本調査は、令和3年10月6日～同年12月2日に実施しており、今後の景気動向や高病原性鳥インフルエンザの発生動向により、意向に変化が生じる可能性があることに留意

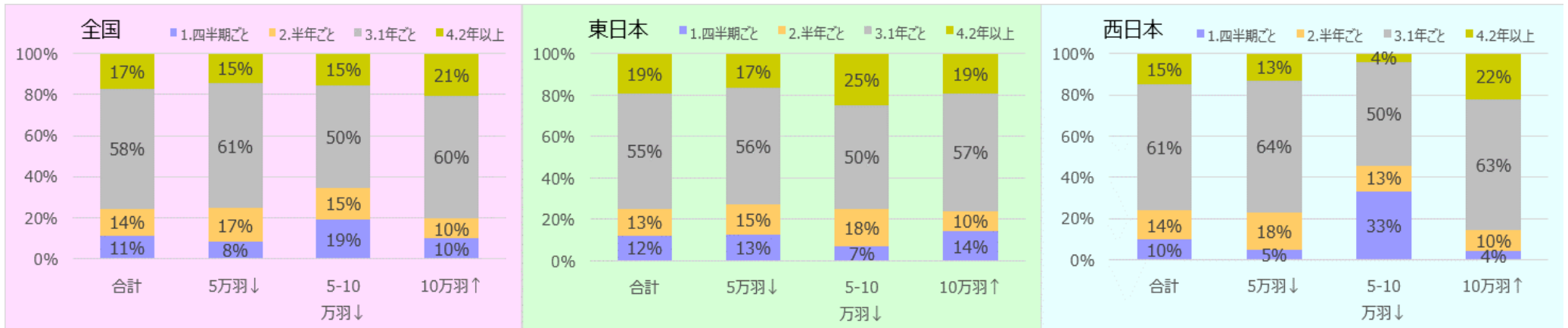
1 アンケート回収状況

- 鶏卵生産者経営安定対策事業加入生産者697名に調査をおこなった。
調査方法は、アンケート用紙を郵送し、FAX・郵送にて回収した。
- 調査項目
たまごの生産・出荷計画、販売状況等
飼養状況(ひなの導入、強制換羽、成鶏更新参加)
今後の予定(飼養羽数の増減、販売先の計画)
- 回収:281名(40%)
全 国281名(100%)
[5万羽未満:113名、5万羽～10万羽未満:55名、10万羽以上:113名]
東日本142名(51%)
[5万羽未満: 49名、5万羽～10万羽未満:29名、10万羽以上: 64名]
西日本139名(49%)
[5万羽未満: 64名、5万羽～10万羽未満:26名、10万羽以上: 49名]



2 生産・出荷販売の計画

- 生産・出荷計画について、全国の飼養規模全体では、「1年ごと」が58%、「2年ごと」は17%、「半年ごと」14%、は「四半期ごと」11%の回答となっている。東西では、西日本の全ての飼養規模において「1年ごと」の選択が東日本に比べ多く回答されている。
- 飼養規模別では、特に10万羽↑で、東日本「1年以上」76%、西日本「1年以上」85%と共に長期の計画設定をする回答になっている。



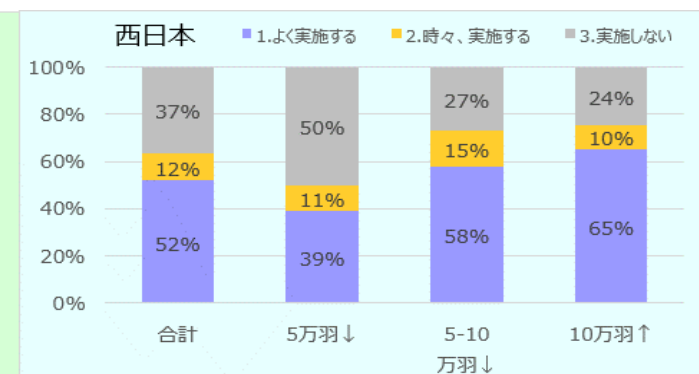
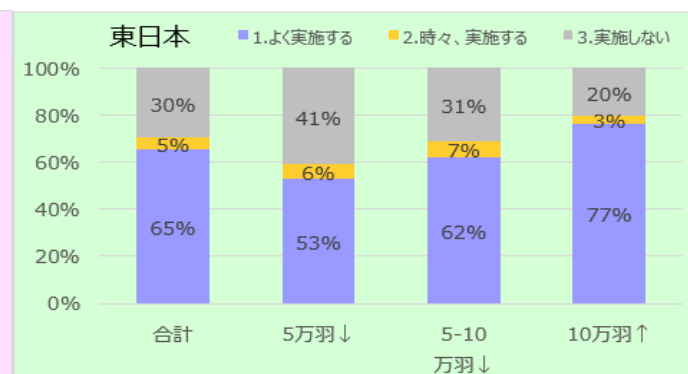
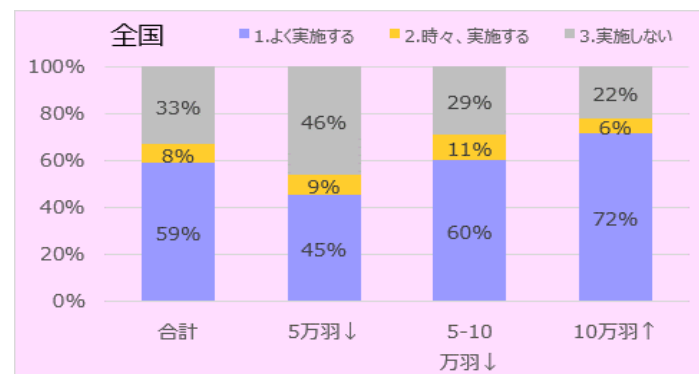
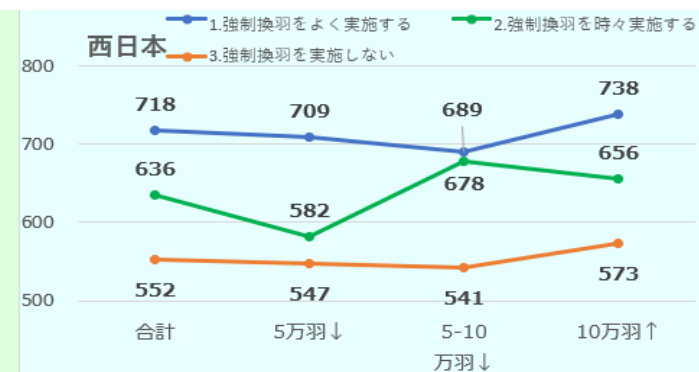
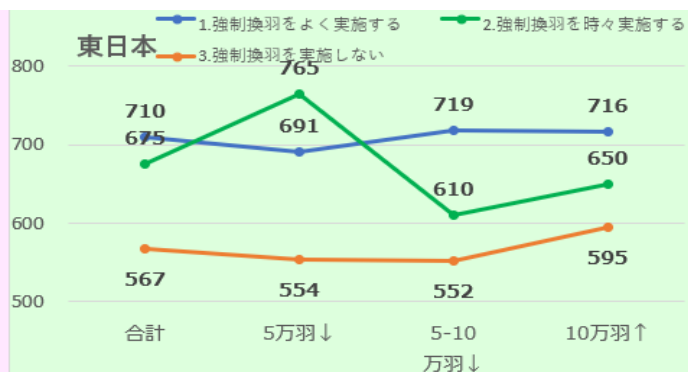
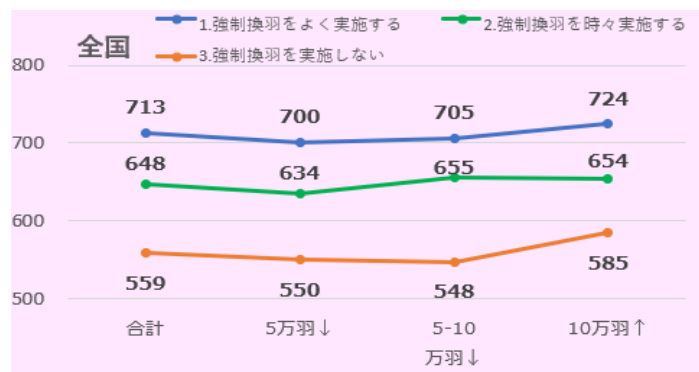
3 ひなの導入予定

- 導入時のロット数は、**全国平均7.3ロット**で、東日本・西日本平均共に同ロット数の回答となった。
- 年間導入回数は、**全国平均6.1回**(東日本平均6.3回、西日本平均5.9回)の回答となった。
- ひなの購入予約は、**全国平均11.3カ月前**(東日本平均12.1カ月前、西日本平均10.4カ月前)の回答となった。

- ①ロット数は、全国平均：7.3ロット（最大100～最小1）、東日本平均：7.3ロット（75～1）、西日本平均：7.3ロット（100～1）
- ②年間導入回数は、全国平均：6.1回（最大60～最小0.5）、東日本平均：6.3回（50～1）、西日本平均：5.9回（60～0.5）
- ③ひなの購入予約は、全国平均：11.3カ月前（最大27～最小1）、東日本平均：12.1カ月前（27～3）、西日本平均：10.4カ月前（24～1）

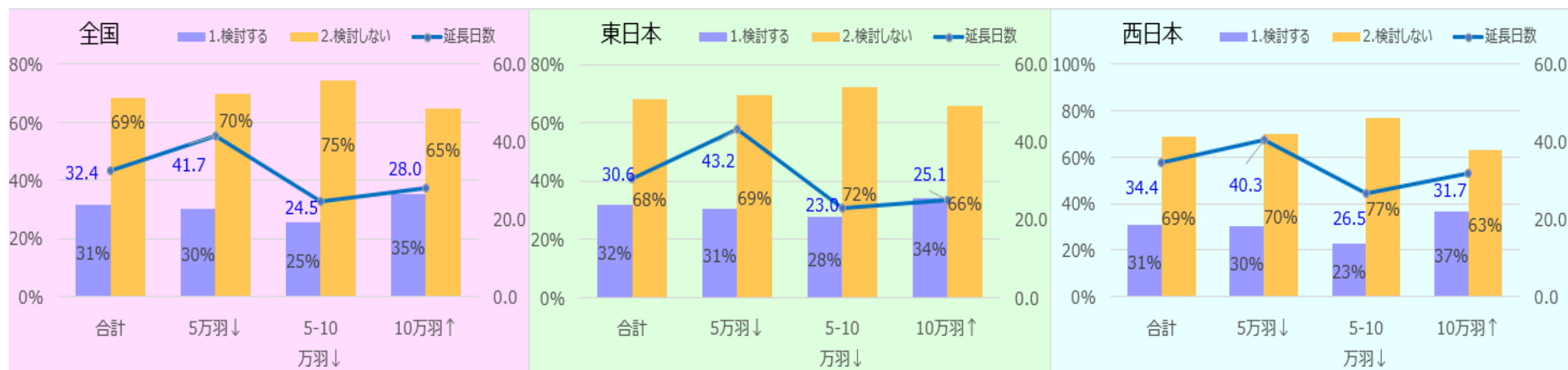
4 成鶏の飼養期間と強制換羽、通常時の空舎期間

- 成鶏の飼養期間平均は、全国の飼養規模全体では、「強制換羽をよく実施する」713日>「強制換羽を時々実施する」648日>「強制換羽を実施しない」559日の回答となった。
- 強制換羽の実施状況は、全国の飼養規模全体では、「強制換羽をよく実施する」59%、「強制換羽を時々実施する」8%、「強制換羽を実施しない」33%の回答となった。
また飼養規模が大きくなるに従い、**実施する(実施する+時々実施する)**が多くなる回答となった。



5 需給逼迫の場合、成鶏の供用期間を検討しますか 検討する場合、何日延長しますか

- 需給逼迫の場合、成鶏の供用期間を検討される割合は、全国の飼養羽数全体では、31%（5万羽↓：30%、5－10万羽↓：25%、10万羽↑：35%）の回答となっている。
- 供用期間を検討する場合の延長期間は、全国の飼養羽数全体では、32日間（5万羽↓：42日間、5－10万羽↓：25日間、10万羽↑：28日間）の回答となっている。

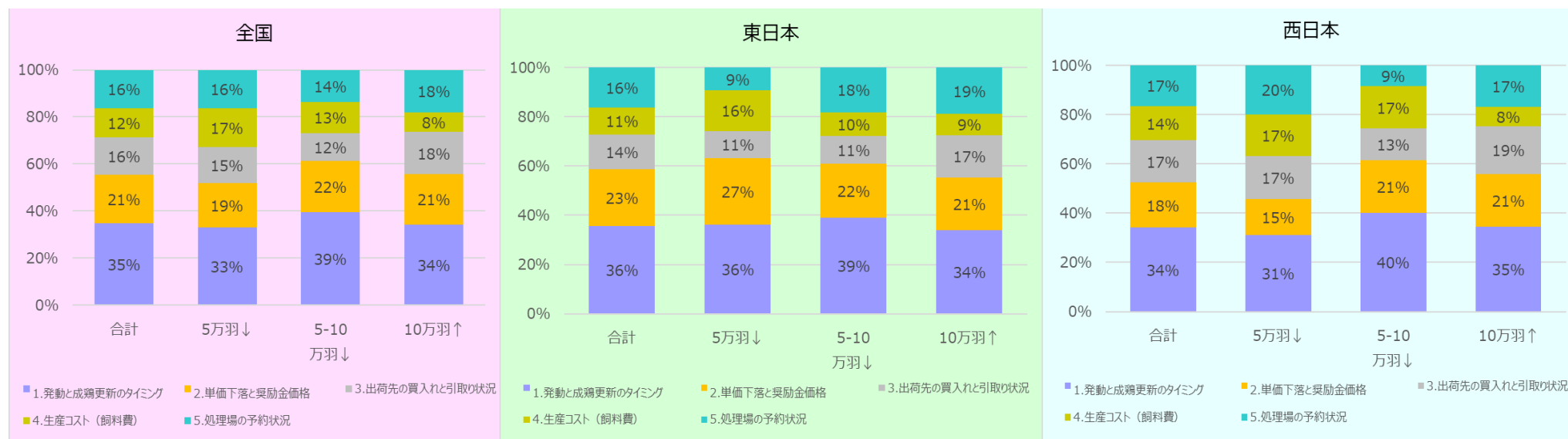


6 成鶏更新空舎延長事業に参加するかどうかの判断基準について

○ 成鶏更新空舎延長事業への参加判断基準は、全国の飼養規模全体では、「発動と成鶏更新のタイミング」35%、「単価下落と奨励金価格」21%、「処理場の予約状況」16%、「出荷先の買入れと引取り状況」16%、「生産コスト」12%の回答となっている。

○ 飼養規模別の回答では、判断基準の大きな変動はなかった。

*集計において、優先度1位:3、2位:2、3位:1にて算出。

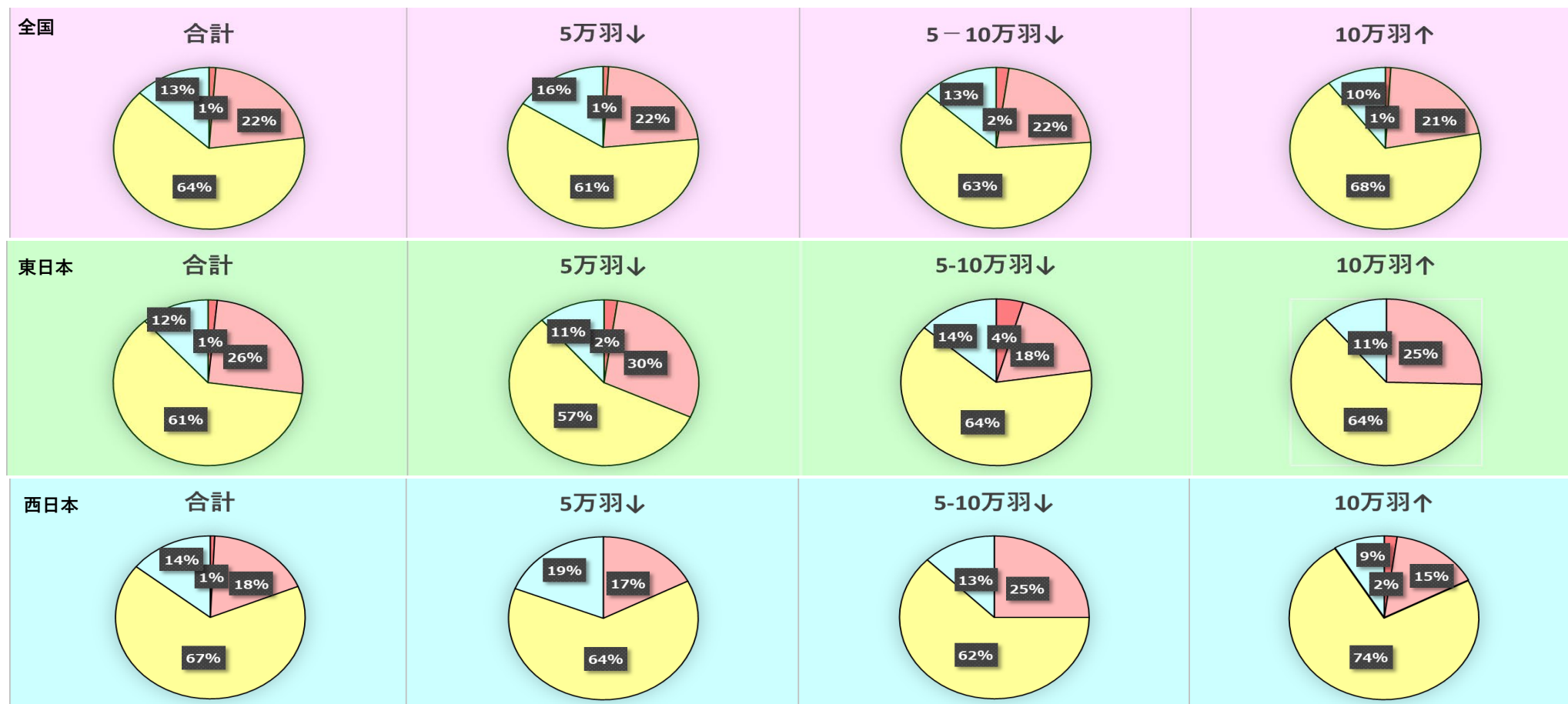


7 たまごの販売状況

○ 販売状況について、全国の飼養規模全体では、「売れていない(非常に悪い、あまり売れていない)」23%の回答となっている。
一方、77%が「売れている(つりあっている、良く売れている)」の回答となっている。

○ 飼養規模別では、10万羽↑の西日本で、「生産量と販売量がつりあっている」が、74%と他に比べ高い回答となっている。

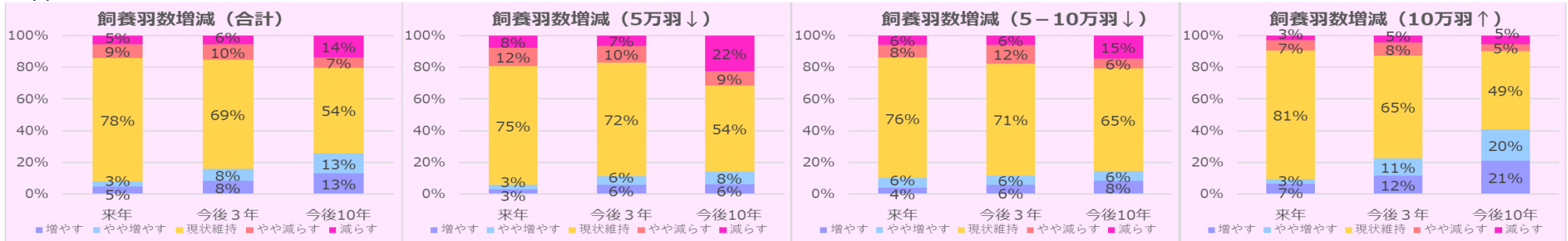
■ 1売れ行きが非常に悪い ■ 2あまり売れていない ■ 3生産量と販売量がつりあっている ■ 4良く売れている



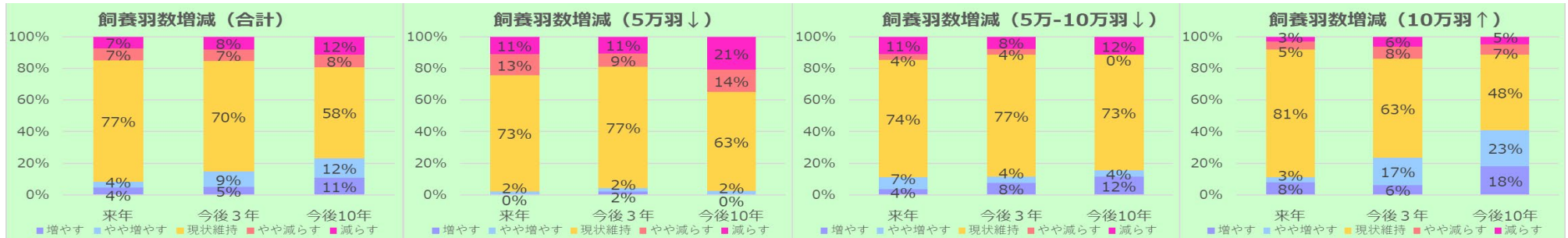
8 飼養羽数の増減予定

- 飼養羽数の増減について、全国の飼養規模全体では短期的(来年)には「現状維持」が78%を占めているが、中期的(今後3年)69%、長期的(今後10年)54%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的8%⇒中期的16%⇒長期的26%、同じく「減らす(やや減らす含む)」も、短期的14%⇒中期的16%⇒長期的21%と、どちらも増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、10万羽↑で、特に「増やす(やや増やす含む)」の回答が、短期的10%⇒中期的23%⇒長期的41%と高くなっている。

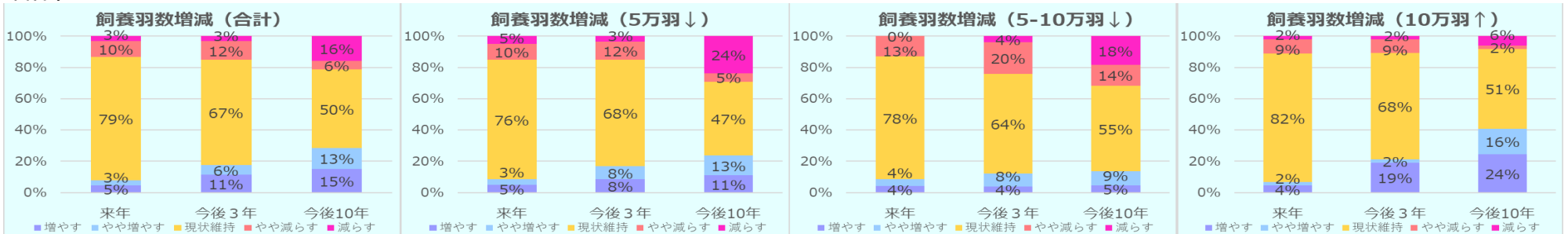
全国



東日本



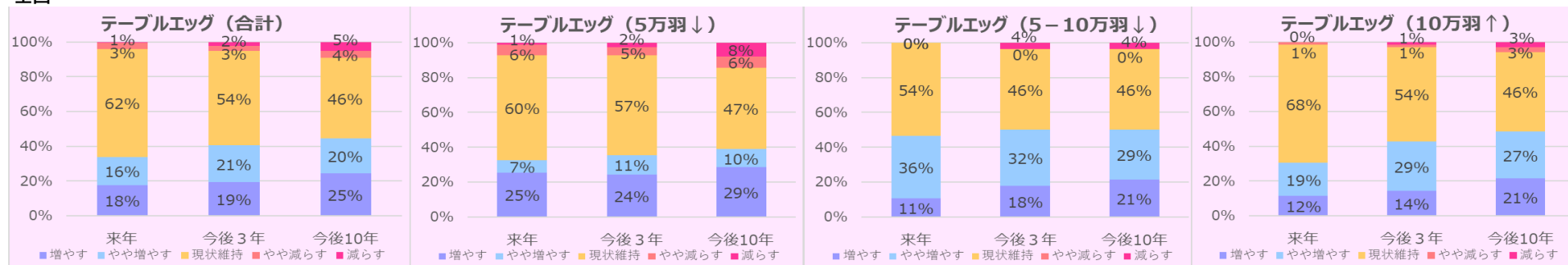
西日本



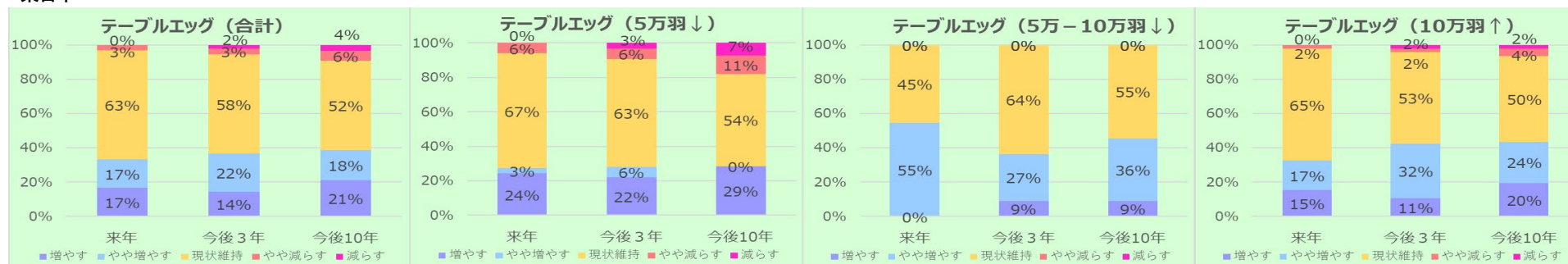
9 販売先の計画①

- テーブルエッグについて、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が62%を占めており、中期的(今後3年)54%、長期的(今後10年)46%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的34%⇒中期的40%⇒45%、「減らす(やや減らす)」は、短期的4%⇒中期的5%⇒長期的9%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万-10万羽↓で、「増やす(やや増やす含む)」の回答が、短期的47%、中期的50%、50%と一番高くなっている。

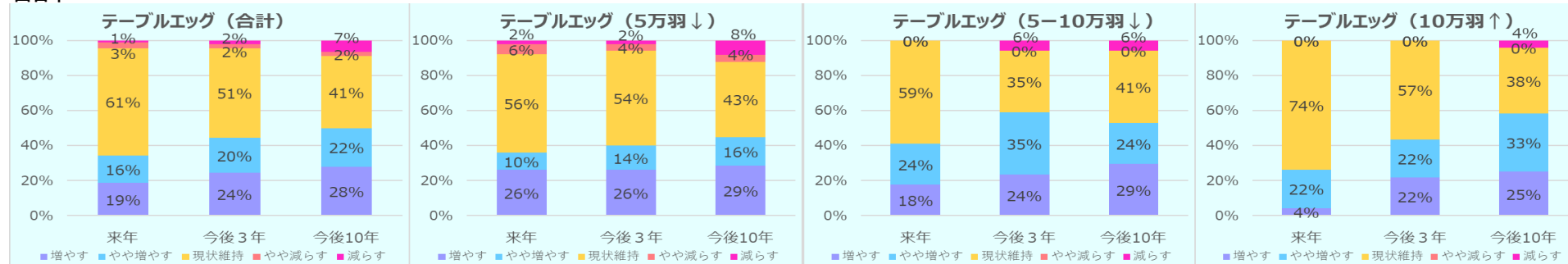
全国



東日本



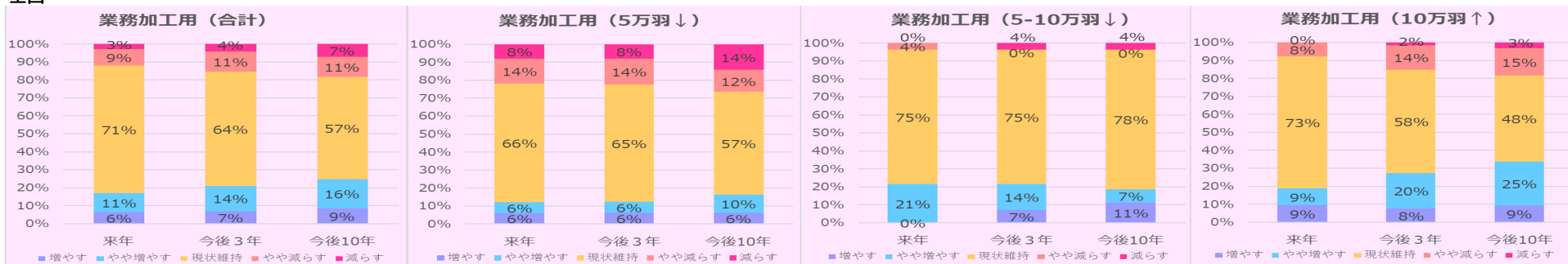
西日本



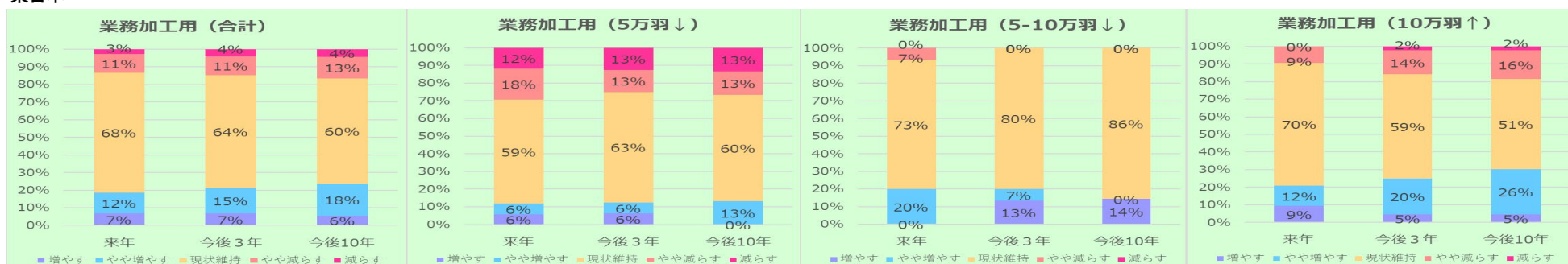
9 販売先の計画②

- 業務加工用について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が71%を占めており、中期的(今後3年)64%、長期的(今後10年)57%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的17%⇒中期的21%⇒25%、「減らす(やや減らす)」は、短期的12%⇒中期的15%⇒長期的18%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別では、5万羽↓で「減らす(やや減らす含む)」、10万羽↑で「増やす(やや増やす含む)」が共に増加傾向で一番高い回答になっている。

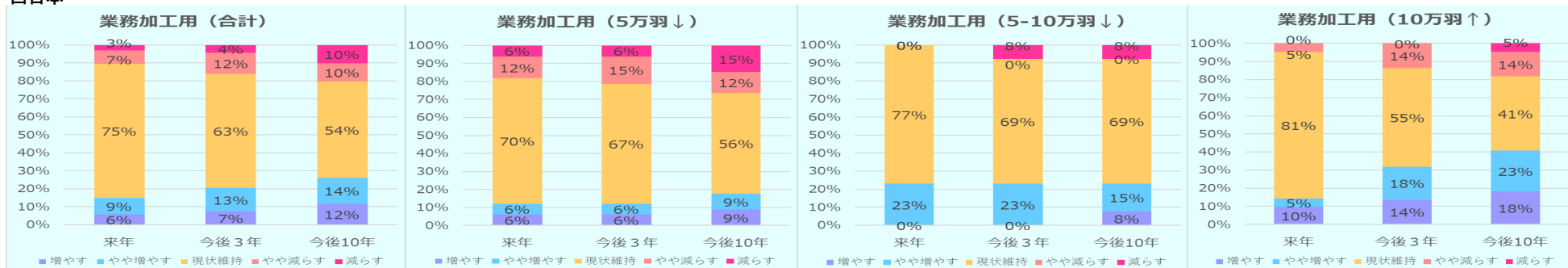
全国



東日本



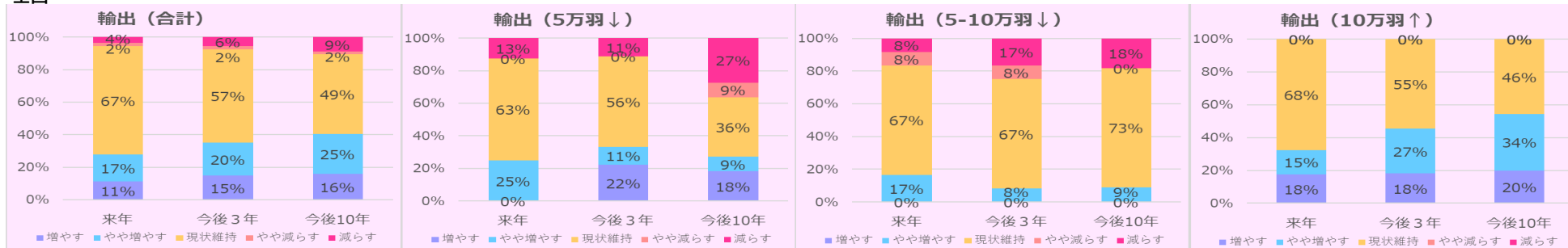
西日本



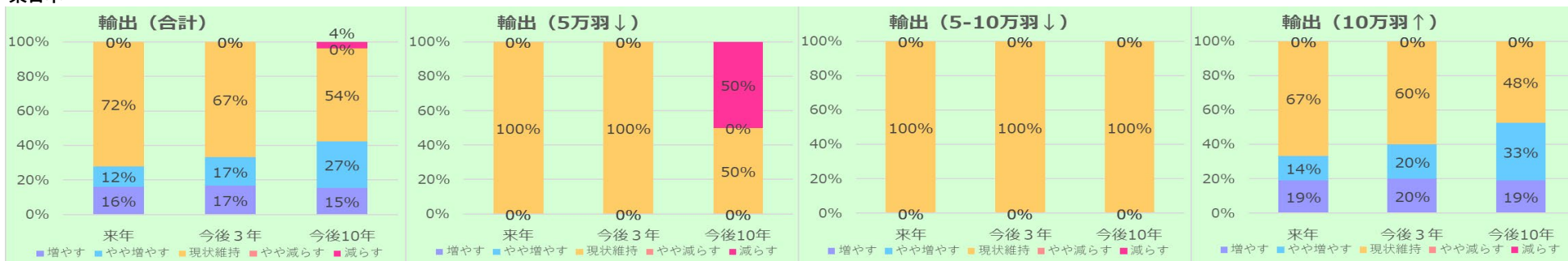
9 販売先の計画③

- 輸出向けについて、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が67%を占めており、中期的(今後3年)57%、長期的(今後10年)49%と減少傾向の回答となっている。一方、「増やす(やや増やす含む)」は、短期的28%⇒中期的35%⇒長期的41%と増加する回答となっている。
- 飼養規模別では、10万羽↑で、「増やす(やや増やす含む)」が、短期的33%⇒中期的45%⇒長期的54%と増加傾向で一番高くなっている。一方5万羽↓では、「減らす(やや減らす含む)」が、短期的13%⇒中期的11%⇒長期的36%と減少傾向の回答となっている。

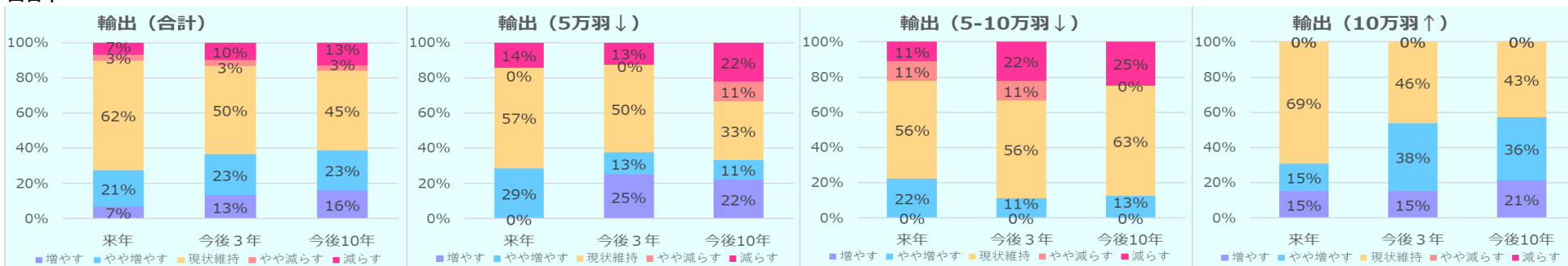
全国



東日本



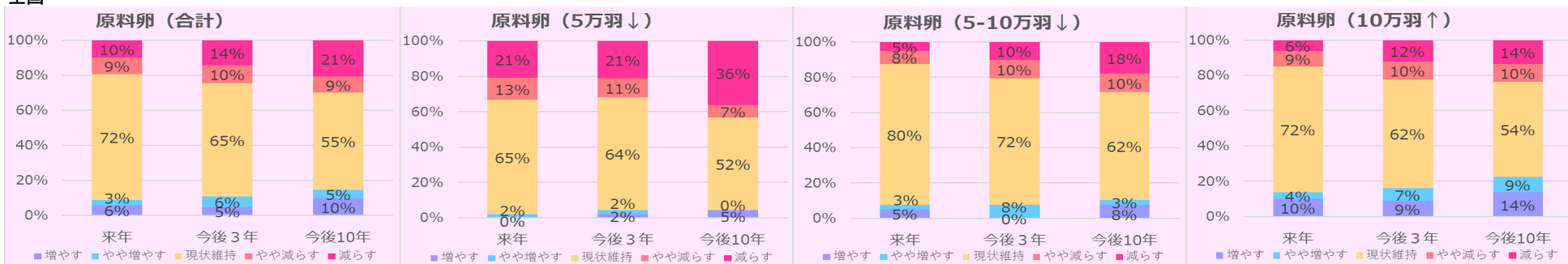
西日本



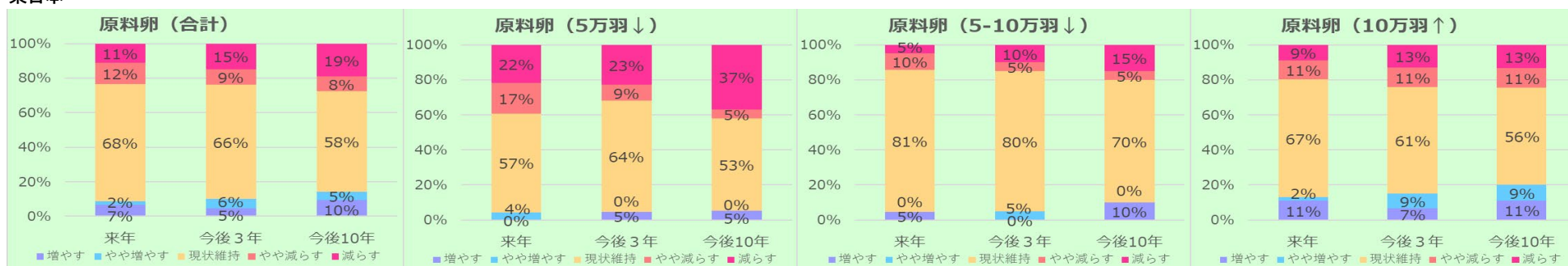
9 販売先の計画④

- 原料卵について、全国の飼養規模全体では、短期的(来年)には「現状維持」が72%を占めており、中期的(今後3年)65%、長期的(今後10年)55%と減少傾向の回答となっている。一方、「減らす(やや減らす)」は、短期的19%⇒中期的24%⇒長期的30%と増加傾向の回答となっている。
- 飼養規模別においても同様の傾向の回答となっている。

全国



東日本



西日本

